

左足首の痛みはだいぶ軽快しているがまだ腫れているし、触ると痛い。今日は院長回診の日だ。循環器のドクターを中心に大勢の教授や医師を連れて、立川院長がやってきた。彼は腫れてまだ痛いぼくの足首をひねくり回し、ドクターたちを眺め回しながらコメントした。

「まだ腫れているね」

ドクターたちは一斉に

「はい、腫れています」

と復唱した。立川院長は大きくうなずいてから、ちょっと首をかしげ、「でも、右足と比べるとこの人の足の裏は、もともとぽちゃぽちゃした足なんじゃないの？」と重大な発見を口にした。

と再びドクターたちに同意を求めた。ドクターたちは明らかに返答に窮していた。

そこでぼくは助け船を出した。

「ここだけの話ですが、実はぼくの足は元来、偏平足なんです。これを妻に知られると『別れる』と言うに決まっています。なんとか入院中に治してもらえないもののでしょうか？」

ドクターたちは「し〜ん」となった。以来、これを「偏平足事件」としてこの病院のカルテに長く記録されることになった。



A病院病室（大部屋）